

単衣抄

御書新版 1849 4行目〜6行目
御書全集 1514 13行目〜15行目

日蓮、日本国に出現せずば、如来の金言も虚しくなり、多宝の証明もなにかせん。十方の諸仏の御語も妄語となりなん。仏の滅後二千二百二十余年、月氏・漢土・日本に「一切世間多怨難信（一切世間に怨多くして信じ難し）」の人なし。日蓮なくば、仏語既に絶えなん。

語句

一切世間多怨難信

法華經安樂行品第14の文（法華經443）。仏が法華經を説く時は、どのような世間でも敵対・反発が多く、信じることがなかなかできないとの意。

通解

日蓮が日本国に出現しなければ、仏の金言も虚言となり、多宝如来が「法華經は真実である」と言った証明も、何の役にも立たない。十方の諸仏のお言葉もうそとなるであろう。

仏が亡くなられて二千二百二十余年の間、インド、中国、日本に「世間の人々に敵対者が多く、信ずることが難しい」と説かれる經文通りに難に遭った者はいない。

日蓮がいなければ、仏の言葉は、もはや途絶えてしまったことであろう。